

会 議 議 事 録

会 議 名 称	令和3年度第1回上里町総合教育会議
開 催 日 時	令和3年10月25日（月） 午前10時00分～午前11時00分
開 催 場 所	上里町役場3階 教育委員会・行政委員会室
出席者	構成員：山下町長、埴岡教育長、 阿久戸委員、相川委員、齊藤委員、岸本委員 事務局：総合政策課 関係課：学校教育課、学校教育指導室、生涯学習課
欠席者	なし
傍聴者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 上里町教育大綱に関する実施状況について 4 意見交換 子どもたちの心のケアについて 5 閉会
配 布 資 料	○会議次第 ○上里町教育大綱 ○上里町総合教育会議設置及び運営に関する要綱

発言者	発言内容
町 長 教 育 長	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 報告事項 ①上里町教育大綱に関する実施状況の報告 (各担当課が上里町教育大綱に関する事業の実施状況について説明)</p> <p>4 意見交換</p> <p>はじめに上里町広報に町長コラムを書いており、そこで書いている私の掲げている事についてお話させて頂く。</p> <p>上里町で障害のある子供とその保護者との意見交換を行う「ま・るーくカフェ」という活動を上里町では初めて10月1日に行なった。</p> <p>子ども応援宣言や子育て支援日本一の町づくりの他、全ての町民が安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現を目指している。子どもたちや保護者の皆様が自分らしく生き、自立できる社会こそ私が掲げる選ばれる町・住み続けたい町につながるものと考えている。</p> <p>次に次第にある子どもたちの心のケアについて私の方から読ませて頂く。</p> <p>①子どもたちを取り巻く現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に変化する生活環境による心の健康問題 ・子どもたちが発信するストレスサイン（異変） ・新型コロナウイルス感染症拡大が及ぼす影響 ・メンタルヘルスの重要性 <p>②不安な心に寄り添うための心がけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校（教職員）ができること ・家庭（保護者）ができること <p>10月23日の土曜日に上里町内5つの小学校の運動会を開催した。子供たちの生き生きとした姿、非常に感情的に映った。本当に良かったと感じた。コロナ禍の中で子どもたちの心のケアについてご意見等頂きたい。</p>

阿久戸委員	ま・るーくカフェではどのような意見があったか。
教 育 長	親御さんの孤立を防ぐ為にネットワークを広げる事が主な狙い。皆さんで経験談などを話す中で安心感などを得られたら良いと考えている。第1回が上里町で行われて良かったと思う。
阿久戸委員	それは町内の人たちだけか。
教 育 長	本庄からも来ていた。上里には特別支援学校は無く本庄に通っているの で、上里でも情報交換ができて良かったという意見もあった。
町 長	団体の話す機会を作ってほしいとの要望があり、まず会議を始めようという事で10月1日に行なった。 悩みを保護者自身が抱え込むのではなく、共有して子育てに生かしていける環境作りが大切だと思っている。 これは1回だけではなく継続していく事が大事とお話させて頂いた。 色々な障害をお持ちの方がいると思うので、そういった環境作りを引き続きしていこうと思う。
阿久戸委員	埴保己一賞を取った、板原 愛さんという弁護士の方にお会いして、その方が言うには、共生社会の前提条件として学ぶ機会と雇用の機会を確保するべきという話があった。誰でも学校に行けるというのは学ぶ機会ということで重要なのかと思う。 医療的ケア児支援法というのができ、学ぶ機会がない子どもに手を差し伸べていくこともとても大事なことだと思う。 共生社会とはやらなければいけないテーマであり、考える機会を作っていく必要があると思う。
町 長	私が目標とするのは自分らしく、障害のある方なども自分で生活でき、技術などを持つことで収入を得るなど、そういった環境を目指したのが共生社会だと思う。
阿久戸委員	調査で学校が楽しいという生徒の割合を出しているが、上里の割合はどうか。総合戦略会議で数値を見たが、小学校6年生で87%くらい、中学校3年生で84%くらいだった。上里町は90%にしようと目標を掲げている。もう少し高いと良いと感じた。

福島室長	<p>100%をもちろん目指して、結果90何%になる。楽しくない子も出てきてしまうが、それは理由を聞き、理由が勉強だったり人間関係だったり、改善のヒントをもらっている。みんなが楽しいと言ってくれるというのを目指している。</p>
齊藤委員	<p>ま・るーくカフェという記事を読ませていただいたが、こういう所に参加できる親御さんは自立していると思う。親御さんの気持ちに沿って、気持ちをほぐせるような取り組みがあれば良いと思う。こういう取り組みを広報に載せた事により、行く方もいるかと思う。しかし悩んでいる人は相当数いるとは感じている。</p>
町長	<p>小学校に上がる段階で、親御さんが特別支援学校に行くか普通の小学校に行くか、選択で悩んでいるという方がいると聞いている。支援できる何かがあればいいと思っている。そういう方を町としても受け止めたいと思っている。</p>
教育長	<p>就学時に上里町では本庄特別支援学校の先生に来ていただきながら支援相談を行っている。お子さんと保護者がよりよい方向を決定できるように支援ということでアドバイスをさせて頂いている。上里町は他の市町より丁寧だと支援学校の先生にお言葉を頂いている。</p> <p>また、子どもの障害に関して親御さんが自分を責める場合がある。その気持ちを和らげたい。障害は誰にでもありうるということで親御さんの責任ではないという所が解けると、少し和らいでくれるという話を伺っている。</p>
齊藤委員	<p>就学時検診の時に検査もしているか。</p>
福島室長	<p>全部の学校で就学時検診の時に検査をしている。心配がある家庭には教育委員会から電話をさせて頂く形で対応している。</p>
齊藤委員	<p>それは発達に遅れがあるなどか。</p>
福島室長	<p>小学校1年生にあがるのに、言葉や読み書きが少し心配な子に対して、教育委員会から電話させて頂いている。小さい頃に早く障害に気付けた方が対応できる。大きくなってからだと対応が難しくなってしまう。保護者の理解と、子どもたちのケアを大切にしている。</p>

岸 本 委 員	<p>ま・る一くカフェなど、こういった場所があるということの広報をして、親御さんの耳に入る事が大切だと思う。先生も子どもや親御さんへのケアについて、手をかけたくても手が回らないなど、そういう点はどうか。</p>
福 島 室 長	<p>ま・る一くカフェの広報については、校長先生を通して特別支援学級の先生に。そして保護者にとりう形で周知している。</p> <p>巡回相談は年に2回から4回行っている。通常学級の中で支援が必要な子どもが見逃されがちなので、一昨年度は臨床心理士さんに入って頂き、今年度は特別支援学校の先生に入って頂いた。通常学級に入っているが支援が必要だという判断した場合には計画を立てて支援をしていく。</p> <p>丁寧に一人ずつの子どもたちを見ている。</p>
教 育 長	<p>サポートに入っている会計年度任用職員は何人か。</p>
福 島 室 長	<p>特別支援学級の生活支援員が3名。介助員が17名。児童支援員が5名。学習支援員が2名。スクールサポートスタッフが7名で、各学校でついている。ケアが必要な生徒には町予算で支援員の配置を頂いているので、担任の先生が授業に専念できる状況は作れている。</p>
齊 藤 委 員	<p>どの方がどういった役割か。</p>
山本室長補佐	<p>介助員は通常学級で授業に集中できない子に対して先生の教えている事をもう一度伝えて回って頂く方。</p> <p>生活支援員は特別支援学級で7人以上のクラスに一人付く。現在は3名の方に特別支援学級に入って頂いている。それ以外の学校はひとクラス6人以下なので先生一人でも授業ができるという状況。</p> <p>児童支援員は1年生が学校になれるまでの間、入って頂いている。</p> <p>学習支援員は、中学校に1名ずつ配置させて頂いていて、学習が遅れているとか中々教室に入れない生徒のサポートをして頂いている。</p>
相 川 委 員	<p>コロナで色々制約されて大変だが、コロナが無くてもやらなければいけない事が多すぎて大変だと感じる。②の不安な心に寄り添うための心がけ（学校と家庭）に関して、学校も家庭も大変な現状で、これ以上頑張るのは難しいと思う。この二つを今後どうするかという所に力点を置くと色々な事が見えてくると思う。</p>

	<p>ま・るーくカフェはこの問題を改善する良い手段だと思う。こういったどんなことを話しても受け入れてくれる場所は児童に一番必要だと思う。学校でクラスでの嫌な事など本音を言う事は利害関係がありすぎて出来ないと思う。教室で楽しそうにしている、クラスで全てがうまく行く訳ではなく別のネットワークも必要だと思う。</p> <p>小学校単位で横の繋がりがあれば、他の学校の子と悩みが共有できれば安心感も得られると思う。わんぱく合宿塾の様な何でも言える場を今の上里町なら出来ると思う。それは先生や保護者にも必要だと思う。本音と建前が日本人ではあるが、本音の話が出来る仕組みを考えて、子どもの本音が聞けると良い。それを政策に生かせたらもっと住みよい街になると思う。</p>
町 長	<p>子どもが親の介護にあたるケースがある、いわゆるヤングケアラーについて、皆さんに意見を伺いたい。学びたくても家庭の中の状態が悪いと学びとふれあいの町が実践できないということが気になる。</p>
教 育 長	<p>ヤングケアラーについては子育て共生課が家庭環境という面から把握しており、教育委員会はそこから情報を頂いている。10人位いる。ただ、定義がとても広く、昔に家の手伝いをしなさいと言われていたことが、今はヤングケアラーと言われる。子どもが放課後に同居の祖父母のお世話をすることにより、部活動や受験など学校生活に支障が出てしまうなど、そういうことで困っている子は上里では殆どいないと聞いている。</p>
福 島 室 長	<p>埼玉県のヤングケアラーの実態調査が2020年にあり、高校2年生5万5千人を対象にしたが25人に1人の4.1%がヤングケアラーに該当するという結果がある。町としてもどういう対応をしていくかという研修をしている。生徒は学校では大丈夫？と聞くと大丈夫と答えてしまう。信頼関係を作って本音を聞ける環境にしたい。これは町と教育委員会の共通の認識のもとにケアしていく。</p>
岸 本 委 員	<p>ヤングケアラーについて、私の知る限りではまだ町で浮き彫りになっているという状況ではないと思う。ただ、教育や学習などで支障が出てくるようになってきたときには検討が必要。適切に介護制度の利用がされていないなどが理由にあるかと思う。</p>
阿 久 戸 委 員	<p>自分も介護やってみて、介護の制度自体がよくわからない事があった。</p>

岸 本 委 員	介護保険などあるが、利用方法についてなど十分な周知がされていないというのは現実ではある。
阿 久 戸 委 員	制度の問題はあると思う。それを理解するのは自分が直面しないと難しい。制度は運用する人が作っているのだから、利用する側からはわかりにくい。話す場や交流する場があればそういった情報も自然と聞こえてくる。例えば介護保険を使った人から介護保険について情報を得られるなど。良い制度は上里にも国にもあり、どう使っていくかというのは交流する機会をもっと意図的に増やすと良いと思う。上里は確かに充実していて良いが、そのことを知る場がない。そこはやはり町長からも発信して頂きたい。
齊 藤 委 員	上里町の小学校1学級の人数は少ないというのもあり、子どもたちが交流する場も少ないと思う。例えば小学校間で時々公開して授業するなど、交流の場があればいいと思う。
岸 本 委 員	働いている親御さんが多い中で、放課後児童クラブ間で連携とか、できることからしていければ良いと思う。
阿 久 戸 委 員	事業を行う際に意識をそういったところまで広げたほうが良いと思う。
相 川 委 員	日本の学校はあまりにも多機能。勉強、生活、生きることを学び、地域と連携など素晴らしいけども大変で、子どもも品行方正な日本人を演じるプレッシャーに悩んでいると思う。 日本人の一番悪いところは悩んでいることを言えなくて、自分が悪いと思うってしまうメンタリティ。みんなで悩んでいる事を話すことが出来れば良いが、そういう場ができただけで評価される位にコミュニケーションする場がない。コミュニケーションをする、理想を求めすぎない、そういうゆるやかな町へと進めた方が良いと思う。
阿 久 戸 委 員	自分らしく生きる社会が共生社会だとすれば、共生社会とは多様性であり、多様性とはいろんな人がいるのだから、交流する場を意識的に広げていけないといけない。多様な人が自分らしく共生していくというのは、交流できる機会をもっと作らないと難しいと思う。制度とか啓発とかではなく、行動を伴う体を動かすものであるべき。
町 長	高齢者だけ、子どもだけではなく、全世代で交流できる施設を作りたいと

相川委員	<p>考えている。子どもの頃から色々な事を学んでいけば自分らしい生き方を考えられるし生き方も変わる。そういう社会を私は描いている。</p> <p>いま何が聞きたいかが一番必要。子どもたちも、興味がある事が聞きたい、興味が無い事はあまりわからない、それが当たり前だと思う。全部を聞いて理解して良い得点を取ることしか強要されないなら、非常にゆがめた人間を育ててしまうのではないかと思う、もう少しうまくできる方法があればとも思う。</p> <p>今回コロナで色々な事がセーブされたが、短縮授業で早く帰ってきた子どもが生き生きしているなど良い面もあるかもしれない、そういう観点でも見て頂けたら私は良いと思う。</p>
岸本委員	<p>給食の時に以前のように班にして食べて生徒同士の会話が戻るとまた違ってくると思う。学校の生徒は皆マスクをしているので表情や思考がわかりにくい。介護の状況でも同様にある。</p> <p>先生はコロナによって家庭環境がわかりにくい中で気づいたことを拾い上げていくがそれ以上のことができない、一人ひとりやりきれない中でサポートしてくれる人の存在は大きい。</p> <p>ま・る一くカフェやオレンジカフェなどあるが、そこまで行くのが難しいとか、時間を合わせる事が難しい方など、相談会をしているといっても中々入りにくい。もっと敷居を低く気軽に声かけられるものがあれば良いと思う。親御さんや介護をする方など、悩んでいる方の交流の場が大切だと思う。</p>
齊藤委員	<p>昔テレビが普及した頃、番組が見たくて家族が一斉に家に帰ってきて、同じテレビを見ながら家族の団らんが始まった事もあった。コロナの中で大変だけど、家庭の中で団らの時間がもてた子供もいるかと思う。</p>
阿久戸委員	<p>上里町は人口3万人で色々な事をする時にとても良い地域だと思う。今後心配しているのはコロナで自粛した交流の場が復活できるかということだと思う。機会がなければ良い制度や良い支援があっても広まらないので、事業を復活していく事が大事だと思う。人によっては地域の行事などをやりたくないという方もいるかもしれないが、町としては交流できる機会を復活させてほしいし、作って行って頂きたいと思う。</p> <p>4 その他 なし</p>

	5 閉会
--	------

署名欄

町 長	山下 博一
教育委員会 教 育 長	埴岡 正人